みわを元気に

三和地域協議会ニュース　第２５号　令和元年５月１６日発行

三和地域の人口・世帯数
男　1,595人
女　1,661人
合　計　3,256人
世帯数　1,660世帯
（平成31年4月末 現在）

発行：三和地域協議会
編集：広報編集委員会

第６回総会を開催しました

４月13日、三和地域協議会の第６回総会を三和荘で開催しました。代議員総数71名のうち49名が出席（委任状が11通）いただき、平成30年度の事業報告・決算、および平成31年度の事業計画・予算案が承認されました。

総会の様子

常設部会のうち「定住促進・情報発信部会」は事業の進め方を検討する部会としての役割を終えたものとして、今後は事務局を中心に諸団体・住民の皆さんの協力の下ですすめていきます。今年度からは新たに「交流・連携部会」を設置し、移住者や学校などと、地域とをつなげて活かす取り組みをしていく予定です。

今年度も、三和地域協議会の活動への積極的なご参加、ご支援をよろしくお願いします。（事業計画は裏面に掲載しています）

また、役員改選により、会長が大槻昭則さんから松下正美さんに交代となりました。

地域で元気に暮らす方法
～公立大学は役に立つのか？～

総会後、福知山公立大学の井口和起学長にご講演いただきました。

「地域で元気に暮らす方法～公立大学は役に立つのか？～」と題した講演では、公立大学の現在までについてのお話、公立大学をとりまくお金の話、そして大学を卒業して学士となるための必要条件と、そのために公立大学はどう取り組んでいくかといった話もされていました。

また、公立大学の地域での活動についても触れられ、一緒にものごとをやるためには、集まって、顔を見て話すことが大切で、地域の人たちには率直な意見を学生に話してほしい、それは学生にとって有益な勉強になるとともに、そうすることで地域の方も人に何かを語る限りは元気でいられる、人に言ったことは自分に跳ね返って元気になる、とおっしゃっていました。

お人柄を感じる講演でした

【新会長就任あいさつ】

会長
松下 正美

今年度より三和地域協議会の会長に就任いたしました松下です。四年間協議会運営に当たられた大槻前会長ありがとうございました。

さて、現在三和地域協議会では、地域が直面している様々な課題に取り組み一定の成果をあげてきましたが、まだまだ改善すべき課題は多く残っています。行政でしかできないことは行政が、地域を熟知している住民でなければできないことは住民が、互いに協力する必要があると考えます。今後とも生活しやすく住み続けられる地域づくりを目指し役職員・部会員始め住民の皆様方と共に取り組んで行く決意です。よろしくお願いいたします。

「三和学園」開園

桜満開と晴天に恵まれた4月9日、地域要望として開園を目指してきた、三和小学校の開校並びに小中一貫教育校「三和学園」の開園式典が開催されました。

体育館で行われた記念式典には児童生徒と、保護者を含む関係者約200人が参加して新しくスタートする学園の門出をお祝いしました。

式典では、大橋一夫市長から「学園の精神である『自立・共生・貢献』のもと、小中一貫校の利点を生かして、児童生徒一人一人が故郷を愛する心豊かで逞しい人に育って」と式辞が述べられたあと、菟原・細見・川合の三地区が和み合う旧三和町の町章を型どった「学園章」を金文字で刺繍した「学園旗」が市長から細谷恵滋校長に手渡されました。

学園旗を掲げる細谷校長

式典に続き、第1期生となる三和小学校1年生の入学式と学園では7年生となる三和中学校入学式が、三和学園の第1回目となる入学式として同時に開催され、新1年生を最高学年の9年生（中学3年生）が手を引いて入場する、学園ならではの入場で開始されました。

なお、三和学園は児童・生徒129人、教職員30人となっています。

式典当日には、開校を記念して作成された、「三和学園開校の記録“ふるさとの期待と願い”」が配布されました。この記念誌は、学園がめざす教育構想や学園歌や学園章の選定理由などが記載されていて、300部限定で三和学園設立準備委員会が作成されたものです。

開校記念誌

退任にあたって

前会長
大槻 昭則

地域協議会の会長と云う大役を仰せつかってから四年の歳月を経て、永かったのか短かったのかも判断が出来ぬほどの年を重ねていた事に驚きました。少なからず進んでいるであろう認知の症状をオクビニモ出さずかばい続けてくださったスタッフや役員の皆様にお詫びと感謝を申し上げるとともに、何よりも地域の皆様にはさぞかし多大なるご迷惑をおかけしたことと反省の毎日であります。

何度も申し上げてきた、地域協議会のあるべき姿は「地域でお暮しの皆様が、ご意見や日頃の矛盾・悩みなどを忌憚なく話せるプラットホーム」であり、そこに集まってきた疑問や問題点を、共有できる各種団体や有識者の皆様・一般に生活をする皆様と解決に取り組み、縦社会や横社会と言われる社会構造に生まれる所謂「谷間」を創らず生き生きと暮らせる社会の仕組みを構築する…しかしまだまだその緒に就いたばかりで地域の皆さまに「困ったときの協議会」にはなりえなかったと反省しきりであり、引き継いでいただいた皆様に進歩と充実を託しご挨拶といたします。

ありがとうございました。

みわひまわりride
利用状況をお知らせします！

	累　計 （平成29年10月 ～ 平成31年4月）
会員登録者数	101人 （内訳：男性25人・女性76人）
利用者数	54人 （内訳：男性10人・女性44人）
運行便数	980便 （内訳：町内便936便・プラント便44便）

平成３１年度事業計画(抜粋)

全体事業

昨年から本格的に取り組んだ福知山公立大学との連携をどう生かすのか、地域福祉政策にどう関わっていくのか、工場立地やスーパー立地などを地域振興にどう結びつけていくのかなどの課題に、様々な団体等と共同することも含め取り組みます。

また、福知山市からは三和の交流拠点施設である三和荘の民営化等についての方向性が示されています。三和荘は単なるスポーツ・宿泊のための施設でなく、地域全体の活性化や交流の拠点施設であり、その公共的な役割を含めて持続的な運営が成り立つよう、地域の思いを結集していかなければならないと考えています。

さらに、定着した行事となりつつある「みわこどもまつり」のほか、地域全体で取り組む「三和ふれあいフェスティバル」「みわ夏まつり」等の地域振興イベントについては、市の補助交付金がカットされてきています。住民活動のよりどころとなる行事のこれからのあり方を考えながら、新たに地域住民の知恵や元気を引き出せるような取り組みを、実施していきたいと思います。

部会活動としては前年度で終止符を打ちましたが、引き続き大きな課題である定住促進の事業については、常任委員会・事務局を中心に各自治会や住民の皆さんと協力し、市と連携して進めます。

三和地域公共交通空白地有償運送事業（みわ ひまわり ライド）

運行３年目を迎える「みわ ひまわり ライド」は、三和地域住民の生活基盤を支える移動交通手段として重要な役割を担うものであり、事務所機能の維持・地域住民の理解と協力・行政の支援のもとに安全で便利な旅客運送を目指します。

今後の利用拡大と安定した運行には、特に高齢者に対するきめ細かで丁寧な周知活動が必要であると考えており、効果的なＰＲとともに利用しやすい環境整備の実現に向けて市への要望を継続していきます。

また、今夏の食品スーパーの開業を契機に「相乗り」時の利用料割引を適用できるよう、市との協議を経て国への登録変更手続きを進めていきます。

常任委員会

三和地域協議会の活動全体を考え執行していく機関として定期的に開催し、地域の求める課題に敏速かつ的確に対応できるよう努めます。また、行政機関や公立大学、各種団体との連携を密にし、効果的で効率的な事業運営をめざします。

平成31年度設置常設部会

協議会発足以来、活動の基本として運営してきた常設部会のうち、定住促進・情報発信部会については事業の進め方を検討する部会としての役割を終えたものとして、今後は定住促進、情報発信ともに事務局を中心に諸団体、住民の皆さんとの協力の下で進めることとし、新たに**「交流・連携部会」**を設置します。

地域活力部会

「みわこどもまつり」は今年度も継続して開催します。地域交流カフェ「みわふれあいカフェ」は引き続き毎週金曜日に開催し、出張カフェも行う予定です。また、三和音頭については、イベントへの出演を継続したり、子どもたちに引き続き教えたりすることで、地域への浸透を図ります。さらに、子育て講演会も開催する予定です。

〇みわこどもまつり

今年も６月に開催します。会場規模は変わりませんが、新たな体験ブースを増やすなどし、子どもたちにとって、有意義で記憶に残るようなこどもまつりを作り上げます。

〇みわふれあいカフェ

冬季休業を終え、平成３１年４月から再開しています。今年度も月１回はコーヒー屋さんのオリジナルコーヒーを出すほか、地域への出張カフェを行うべく場所を検討中です。

〇三和音頭の普及

今年度も町内イベントに参加し、依頼いただけば踊りを教えに行くなど、三和音頭の普及に努めます。

〇講演会等の開催

冬期に、子育てについての講演会を開催する予定です。

〇ラジオ番組での広報活動

今年度も継続して、４月の放送からラジオ番組で三和地域のアピール活動を行っていく予定です。

生活基盤部会

２年間にわたり取り組んできた地域自治の維持・存続についてのテーマはこの部会の基本的な課題として維持しながら、新年度はより具体的に地域福祉の課題に取り組むこととしました。

地域の各団体やグループ、個人に呼びかけ、当面は国が進める「地域包括ケアシステム」についての理解を深め、その内容や課題、住民の関わり方について学習と研究を進めるため、部会員を募っていくこととします。

交流・連携部会

人口減少と少子高齢化に歯止めをかけることは困難な課題ですが、三和地域では工業団地の立地が進み、新たなスーパーが進出するなど、地域のポテンシャルを上げる要素が増えています。この間の取り組みの成果として移住者も他地域よりは多くなってきました。福知山公立大学との連携では、地域住民や中学生との交流も深まり地域に元気を生み出しています。

そこで、地域協議会を拠点としてこれらの要素をさらに生かしてつないでいく取り組みが必要であると考え、本年度から「交流・連携部会」を立ち上げることとしました。部会活動、研究の内容については部会の中で協議して決定していきたいと思いますので、多くの皆さんの参加をお願いします。

地域住民活動支援事業

さまざまな地域振興事業や、三和地域の維持存続を図り暮らす人が元気で過ごせるための活動をする団体や地域を支援します。また、地域活動を始めたいという人の相談をうけたり、各種の支援制度などについてアドバイスし、住民活動の活発化を図ります。

広報紙「みわを元気に」の発行、その他の情報発信

定期的に広報紙を発行し、地域における住民活動情報の発信と協議会活動の理解促進に努めます。

また、フェイスブックやホームページを活用し、地域協議会の活動がより「見える」ものになるよう、発信していきたいと思います。

その他の事業

その他、三和地域の存続発展と、地域住民の生活改善、福祉向上につながる事業に取り組みます。

ラジオは、大原神社について&三和音頭inうぶやフェス

時間が足りずすみません…

ＦＭ丹波で月曜～金曜午後４時から放送中の番組「七色バラエティワイド」内で隔月１回、三和地域協議会が三和地域の情報を発信している『みわを元気に』のコーナー。第11回が４月24日に放送されました。今回は、大原神社の宮司林秀俊さん、総代の大槻兄市さん、副総代の小林進さんをお迎えし、大原神社について、産屋について、ウエディングやフェスタについてもお話いただきました。

お聞きしたいことが沢山ありすぎて、時間が足りなさすぎました。

↑このＱＲコードを携帯電話・スマートフォンやタブレットで読み取り、出てきたリンク先をクリックすると、内容をお聞きいただけます。（通信料がかかります）

三和でこんな活動しているよという方や、何だか楽しそうだから行ってみたいという方も、ぜひ協議会事務局までご連絡ください。今年度も楽しく三和をアピールしていけたらと思います。

そして、今年は５月３日のうぶやの里フェスタinみわに参加し、三和音頭を踊りました！とても天気が良く、暑いくらいでしたが、元気に踊っていただきました。飛び入りでご参加いただいた方々も、ありがとうございました。

三和音頭を踊りに来て欲しい、踊りを教えて欲しいという方がおられましたら、事務局までご連絡ください。

とても天気の良い日でした